対談 名寄市長 × 名寄市立大学生

名寄市の強みとこれから

「いろいろな人が自分らしく生き、
地域の中で活躍している
街になっていってほしい」

上西： 今日はどうぞよろしくお願いします。まずは「総合計画」について教えていただけますか。

市長： 総合計画は10年という長期を見越して立てる、名寄市にとって最も大切な計画です。今回は2017～2026年の10年間。前回の10年（2007～2016年）とは、社会の状況が大きく変わってくる10年になると思っています。

上西： どんな風に変わるのでしょうか？

市長： 地方の人口はさらに減少し、都市に人口が集中していくと言われています。ですから、いかに人口減少をゆるやかにしていくか、かつ、地域の活力が失われないようにするか、効率的・戦略的に考えなくてはなりません。そのためには、名寄の強みを活かし、そこに資源を集中して投入する必要があります。そこで、今回の総合計画では「重点プロジェクト」という柱をつくりました。経済・産業を活性化させること、安心して子育てができること、冬季スポーツの拠点化の3つで（8-9ページ参照）、5つの基本目標と横断的につながり、重点プロジェクト同士も関連しあっています（12ページ参照）。

上西： それは、どういうことですか？

市長： 例えば「冬季スポーツ拠点化」でいくと、いま、アジアでは大きな冬季スポーツの大会が続いていますが、そのフィールドとして北海道が注目されています。「冬季スポーツと言えば名寄」という立ち位置が確立できれば、選手や指導者などはもちろん、名寄を訪れる方も増え、名寄の経済・産業の活性化につながると考えています。ジュニア選手の育成環境を整えていけば、子育て・教育環境の充実にもつながります。スポーツ環境が整い、生涯スポーツが定着していけば、市民の健康増進にもつながり、医療・福祉の視点からも有効だと思います。

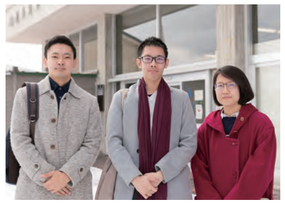
上西： 個別に一つひとつ取り組むのではなく、3つのプロジェクトに力を入れることで波及効果がでるんですね。

市長： また、近隣自治体との連携が重要になると考えています。名寄市が中心

となって地域全体を支え、それぞれの自治体が特色や強みを活かし、連携する。そうすることで「減っていくもの」をカバーし、道北全体がいろいろな魅力を持つ豊かな地域になると考えています。

上西： 僕は看護学部なので少し気になるのですが、病院などもそうでしょうか？名寄市が道北地域の医療をカバーするのは、負担が大きすぎませんか？

市長： この地域の医療については、名寄市の責任は大きいと思っています。重篤な患者を対象とする高度医療・急性期医療の設備や人材は、やはり名寄市が中心となって、他の自治体にも負担をいた



（左から）
大山 和依： 遠軽町出身。看護学部3年生。軽音学部で仲間とともに音楽イベントも開催。
上西 伸生： 旭川市出身。看護学部3年生。「北の天文字焼　ギネス挑戦プロジェクト」の学生リーダー。
林川 恵美： 斜里町出身。社会福祉学科3年生。サークル「おばあちゃんといっしょ」発起人。
（肩書、内容は2017年3月現在）

だきながら整えていく必要があります。自治体同士が協力していかなければ、この地域の過疎化は一気に進むと感じています。また、医療分野でも役割分担が進んでいますので、すべてを名寄市が担うのではなく、名寄市は高度医療を守り、各自治体は地域事情に合った、市民密着型の病院・診療所を展開していくことが必要だと考えています。

大山： 名寄の強みについてですが、大学の図書館も新設され、エンレイホールもできて、文化的な部分が充実していますよね。

市長： そうですね。エンレイホールに一流のアーティストが来ることで、遠方からも人が来て経済効果にもつながっています。最近では、子どもたちによるオーケストラも結成されました。子どもたちには多くの才能や可能性が潜んでいるはずですので、できるだけいろいろな機会を提供したいですね。都会と違ってたくさんの選択肢を提供することは難しいですが、名寄の特色を活かした上質な体験をさせてあげたいです。

大山： 食も名寄の強みですよね。野菜ももち米もおいしいですし、飲食店もたくさんあります。

市長： はい。どこの野菜を食べても、

やっぱり名寄の野菜が一番だなと思っちゃいますね（笑）。名寄は冬が長くて雪も多いし、粘りが強い土質なので生産者の方はとても苦労されています。でも、だからこそ名寄でしか育たないとても質の高い農作物が作られていますし、それを活かしてくれるお店も増えてきましたね。食は市民の生活にとっても、観光や経済という視点からも重要です。みんなで一緒に盛り上げていって、応援していきたいですね。

林川： 障がい者福祉が充実している点も強みだと思います。ただ、障がいを持っている人たちがいきいきと学んで働くためには、施設や仕組みだけでなく、心のバリアフリーも大切ですよね。

市長： 差別や偏見なく、障がいを持つ方の気持ちに寄り添うことが大切です。皆さんは名寄の小学校の授業を見たことはありますか？

林川： ないです。

市長： 名寄の小学校は障がいがある子もない子も一緒に学んでいます。こういった環境は、心のバリアフリーにはとても有効ですよね。障がい者雇用を促進する「職親会」という組織も古くからあり、多様な人との共生については、理解が広がっていると感じています。障がいを持っている人が住みやすい街ということは、ほかの人たちにとっても住みやすいということになると思います。

林川： 市長が考える住みやすさとはどういったものですか？

市長： ある雑誌の「住みよさランキング」では、名寄市はいつも道内で上位にランクインします。公共サービス、医療・福祉、商業施設が充実しているからだと思います。これからはそういったハード

だけではなく、人とのつながりや自分らしく生きるというソフトな部分を充実させていくことで、さらに住みやすくなるようにしていきたいです。経済的な豊かさだけでなく、自己実現や人・地域とのつながりなど、いろいろなものが総合して、人は幸せと住みやすさを感じるのだと思います。

上西： 10年後の2026年、名寄がどんな街になってほしいですか？

市長： いろいろな視点からまちづくりを考えることができますが、やはり「人」について話したいですね。総合計画を実現するのも、名寄を豊かにしていくのも、実行していくのは結局「人」です。特に、大学は名寄市の宝です。学生が地域で活躍することで街の課題が改善され、私たち市民みんなが学生を応援していけるような仕組みができていてほしいです。また、総合計画の議論の中で市民の方から「私達のような高齢者を地域の力としてとらえてほしい」という言葉をいただきました。70歳、75歳を超えても、自分のペースで社会と関わりを持って働けることが理想です。10年後、若者も高齢者も障がいを持つ方も、多様な人が地域の中でいきいきと活躍している街になってほしいと願っています。

Nayoro Quiz

A3. 3店舗。かつては10以上の店がありました。1964年に火災に遭い、建て替えられています。

Q4. 名寄は国内外に友好都市が4つあります。どこでしょうか？